

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学研究科
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的 に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 他学部・他大学出身者に拡大した特別入試制度の効果を検証し、一層の制度改革の必要性について検討する。	→ 「他学部・他大学からの受験者数・合格者数・入学者数」「他学部・他大学からの入学者に対するアンケート調査の実施」「他学部・他大学からの入学者拡大の数値目標についての大学院問題検討委員会における検討」	B
2. 社会人に拡大した特別入試制度による社会人入学者の増加を検証し、一層の制度改革の必要性について検討する。	→ 「社会人の受験者数・合格者数・入学者数」「社会人受験者の専攻科目」「社会人入学者の履修科目(昼夜別)」「社会人入学者に対するアンケート調査の実施と分析」「社会人入学者拡大の数値目標についての大学院問題検討委員会における検討」	B
3. 本研究科への進学希望者のニーズを把握し、受験者を大幅に増加させるために効果的な方法を検討する。	→ 「学部学生に対するニーズ調査・進路希望調査の実施と分析」「大学入試説明会の開催状況」「学部学生と大学院生の交流状況」「広報活動の強化」「受験者数」「進学希望者のニーズを把握するための検討の進捗状況」	C
4. 学生募集および入学者選抜の実施に伴う合否判定基準の適切さについて、定期的に検証する。	→ 「各種入試の合否判定基準についての大学院問題検討委員会における定期的検討」「各年度における大学院問題検討委員会における検討状況についての研究科委員長への報告」	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★	小項目5.0.1	(方針) ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学政治学の研究を極めることを通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富み、高度の専門的能力を獲得することを目指す人材を受け入れる。前期課程では5プログラム、後期課程においては3専攻が提供されている。 (現状説明) 大学院案内や大学院履修心得その他において、上記理念および5プログラム・3専攻における人材養成目標が公表されている。
★	小項目5.0.2	(現状説明) 2010年度より特別入学試験の対象を、他学部・他大学生および社会人にも拡大した。2010年度入試においては、1名の他学部・他大学生の特別入学試験受験者、および3名の社会人特別入学試験の受験者があった(3名合格)。ロースクール設置後、法学研究科の定員充足率は大幅に設置し、2009年度の定員充足率は0%となっている。
★	小項目5.0.3	(現状説明) 前期課程については、コース制の再編および入学試験制度の改革等により、ロースクール設置後に低下した定員充足率は2010年度入試で若干回復された。2010年度の定員充足率は40%である。
★	小項目5.0.4	(現状説明) 入試制度における論文試験・外国語試験・面接試験の評価基準および実施方法について拡大大学院問題検討委員会および研究科委員会において検討し、申し合わせの改正等を行った。
★	その他	

《特定6項目データ》

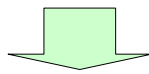
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学研究科】		前期/後期課程	単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	61.5%	90.9%	78.6%	61.5%	50.0%	一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	
指標2	志願者総数	前期課程	人	30	30	22	29	39	
		後期課程		8	5	4	5	7	
指標3	志願者倍率	前期課程	%	66.7%	66.7%	48.9%	64.4%	86.7%	志願者÷入学定員
		後期課程		133.3%	83.3%	66.7%	83.3%	133.3%	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	特別入試制度の拡大により、受験者数の増加および受験者の多様化が実現された。
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	入学試験制度の多様化に伴う入試制度全般の複雑化について検討し、入試相互間の判断基準の統一が図られた。
その他	



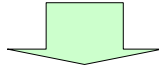
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○ロースクール設置後に低下した定員充足率は2010年度入試で若干回復されたものの、依然40%と低位であるとされている点が強く懸念されることです。

【学内委員】

○定員確保に向けて、特別入試制度を拡大し、入試制度全般について判断基準の統一化を図るなど順調に進展しています。
○「C」の項目については、「改善すべき事項」での記述がある方が望ましいと思われま。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ ・大学院の教育研究状況についての広報活動を積極化するための検討を行う。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

5.0.0.S1	学生の多様性の確保—入試形態数と入試形態別入学者の割合
5.0.0.S2	各学部での募集人員のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合
5.0.0.S3	地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数
5.0.0.S4	入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数
5.0.0.S5	AO入試の受験者数と入学者数
5.0.0.S6	社会人学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S7	専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数
5.0.0.S8	科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数
5.0.0.S9	聴講生の入学者数
5.0.0.S10	留学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S11	国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化
5.0.0.S12	学部における収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S13	学部における入学定員に対する入学者比率
5.0.0.S14	編入学定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S15	博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S16	博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在学学生数比率
5.0.0.S17	学部・学科の退学者数
5.0.0.S18	学部・学科の編入学者数

<個別的な指標>
